

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「スターバックス、大分初の公園店舗“別府公園店”地元アーティストが協力」
- 2) 「渋谷パルコで“虫ランチ”初体験 無印・ドンキも参入」
- 3) 「LINEでごみ分別案内 リサイクル向上など期待」

1) 「スターバックス、大分初の公園店舗“別府公園店”地元アーティストが協力」

スターバックスコーヒーは12月12日、大分県別府市の別府公園に、県内初となる公園店舗の「スターバックスコーヒー別府公園店」をオープンする。スターバックスコーヒー別府公園店は、別府公園東駐車場便益施設等整備運営事業の審査にて選定され、大分県初の公園店舗として出店する。

別府市の中心に位置し、広大な敷地に多くの樹木、四季折々の植物に囲まれた自然豊かな別府公園の東駐車場にオープンする。店舗の前には芝生が広がり、コーヒーを片手に別府公園の緑を望むことができる。日常生活で車を多く利用する地域の人々のライフスタイルに合わせてドライブスルーを併設し、お客のニーズに合わせて利用できる。

「Layered Aroma」をコンセプトに、別府市内の温泉街に広がる湯けむりとコーヒーから漂う香りが、折り重なり合うアロマのように、地域とスターバックスとのつながりが築き上げられることを願い、店舗をデザインした。店内は、大分県出身のアーティストや職人が協力し、アートや照明が一つの空間で一体となり、個性が重なり合う地元の魅力が詰まった空間とした。店内の中央には別府市の伝統工芸の竹細工で地元職人が手掛けた、オリジナルの照明を設置。繊細に編まれた竹材の照明は、コーヒーのアロマの上昇感を表現した。

心を豊かにする要素のひとつである店内のアートは、大分県出身の若手アーティストの作品と一般社団法人Get in touchのキュレーションによる別府市内で活動する3人のアーティストの作品を展示。多様な感性から生み出された作品に触れながらコーヒータイムを楽しめる。人と人、人と地域など、たくさんのつながりが生まれるコミュニティの場となるように、コーヒーを通じて心あたたまるひとときを提供するという。

店舗数の多い市街地ではなかなかこういった特色のある店は見かけないが、最近のスターバックスの新店舗では地元アーティストとの協力がよく見られるようになった。地元ならではのものがあると地元の人はもちろん、内装を見にわざわざ遠方から足を運びたくなる。コンセプトやデザインの考え方など、参考にしたい点は多々あるので今後の店舗にも期待したい。

2) 「渋谷パルコで“虫ランチ”初体験 無印・ドンキも参入」

無印良品、パルコ、ドン・キホーテ……。大手企業が「昆虫食」に熱い視線を送っている。“ゲテモノ”のイメージが強かった昆虫食が今、さまざまな理由から「新たな食のスタンダードになり得るのでは」と注目されているのだ。その理由を深掘りするために、まずは渋谷パルコで「虫ランチ」を試してみた。

約3年の休業を経て11月、グランドオープンした「渋谷パルコ」。その地下レストラン街には、昆虫を扱うレストラン「米とサーカス」があるらしい——。そう聞いて早速、現場に行ってみた。

地下街をうろついてみると、長蛇の列ができている店もあったが「米とサーカス」には客が10人ほど。ガラガラではないが、他の店に比較するとやや控えめな人数だ。ただ、店の外では人々がひっきりなしに立ち止まっては、メニュー看板をスマホで撮っていた。

頼んだのはランチメニューの「バグバーガー（1480円）」。パテにはコオロギ肉にひよこ豆や白米が練りこまれているという。追加でグランドメニューの「いなごの佃煮（500円）」「スズメバチの子甘露煮（470円）」デザート「MUSHIパフェ（1250円）」も注文した（いずれも税別）。隣の席では、会社の同僚と思われる5人グループが「六種の昆虫食べ比べセット（1780円）」を囲み「これインスタにアップしたら、全員アンフォローされちゃうかなあ？」などとワイワイ話している。

15分ほど待つとすべての注文がそろった。バグバーガーは、粘着があまりないためホロホロと口の中でほどけてしまうが、あっさりとしてクセがない。

いなごの佃煮はすでに日本でもおなじみのメニューだが、スズメバチの子甘露煮は初めてだった。プチプチとした食感に甘さが絶妙にマッチ。いずれも「目をつぶって食べれば、虫とはわからない」と言える味だ。もっともインパクトあったのは「MUSHIパフェ」。タガメがパフェを抱きかかえるように飾られているという衝撃の見た目に、ハサミがついて、タガメをチョコチョコ切って“解体”するようだ。身をスプーンでかき出してみると「うーん、マスカットみたいな感じ……？」見た目と味のギャップに戸惑いながら、初めての虫ランチ体験は終わった。

新生パルコに昆虫食レストランを入れた背景として、パルコ広報担当者は「未来の食として真剣に昆虫食やジビエと向き合っているオーナーの思いを聞き、新しいカルチャーを発信するパルコとして（昆虫食に）取り組む意義があると感じた」という。

昆虫食に参入を決めた大手企業はパルコだけではない。

無印良品を展開する良品計画も11月21日、2020年春から一部店舗とネットショップで「コオロギせんべい」を発売すると発表した。理由について、良品計画の広報担当者は「環境負荷の低い食材として昆虫食に注目したことがそもそものきっかけだった」と語る。

Twitterを見ると、2017年頃からヴィレッジヴァンガードやドン・キホーテといった大手小売店でも、昆虫食の取り扱いが話題になっている。

さらに、11月21日放送のTBS系『櫻井・有吉THE夜会』では、ゲストの長澤まさみさんが「今一番やりたいこと」として昆虫食を挙げ、実際にコオロギラーメンを試食するなど、大手メディアでも昆虫食の注目度は高い。昆虫食は今「ゲテモノ」から「大きな可能性を秘めた食材のニュー・スタンダード」へと進化を遂げているのだ。

そもそもなぜ今、昆虫食がにわか流行り始めているのか？

前述の「コオロギラーメン」の開発者でもあり、昆虫食の魅力を研究している篠原祐太さん（25）に話を聞くと「さまざまなプレイヤーの動きが注目され始め、今（昆虫食は）ちょうど点と点が線や面に変わっている状況」だという。

まず一つ目は、大手も注目する「代替肉」としての文脈だ。環境問題の解決策がこれまで以上に真剣に議論される中、エネルギー効率がよく栄養価も高い食材として昆虫食はにわか脚光を浴びている。

日本では、雑誌「Discover Japan」11月号の「発酵食」特集で、篠原さんらが開発を手がけたコオロギ醤油や、タガメのクラフトジンが大きく取り上げられるなど「新たな食材としての可能性」にも熱い視線が注がれている。

さらに、虫の乾燥スナックやプロテインバーが楽しめる自動販売機がTwitterで話題になるなど「おもしろコンテンツ」の文脈もあるという。こうした多様な文脈が織り重なり、今「昆虫食」ブームの兆しが訪れている、と篠原さんは言う。

最近じわじわと注目を集めている「昆虫食」。私自身昆虫を口にしたことがないのでかなりの抵抗があるが、そのまま食べる以外にも発酵食や酒など加工品として様々な可能性を秘めていると知って驚いた。今はまだ話題性やおもしろみだけの昆虫食が近い将来、一般的なメニューになる日がくるかもしれない。

3) 「LINEでごみ分別案内 リサイクル向上など期待」

無料通信アプリ「LINE（ライン）」の公式アカウントを利用し、家庭ごみの分別検索サービスを提供する自治体が相次いでいる。「トーク」画面からごみの内容を入力すると、事前にシステムに登録された分別方法を表示。名古屋市や熊本市などの政令市のほか、中核市にも広がり、職員の負担軽減やごみのリサイクル率向上が期待されている。

9月に北海道で初めて導入した中核市の旭川市。「傘」と入力すると「燃やせないごみです」「拠点回収施設への持ち込みも可能です」と素早い回答があった。市によると約千のキーワードに対応し、未登録の単語を入力すると、市ウェブサイトの家庭ごみ分別一覧のページに誘導する。

背景には、スマートフォンの充電に使われるモバイルバッテリーや電子たばこなど新素材や新製品が登場し、分別に関する相談が増えたことがある。年間約2万5千件、多い時には1日約200件の問い合わせが寄せられ、窓口となる職員4人では対応しきれない場面も多い。

各種手続きを案内する市公式アカウントの登録者数は8月下旬は約1400人だったが、分別検索サービス導入後は11月1日現在で約3300人と2倍以上に急増。市クリーンセンターの内田和博主幹は「ラインなら24時間365日対応でき、分別方法が分からずもやもやしていた市民の解決策になる」と話す。

利用拡大を狙い、福岡市は若年層をターゲットにした仕組みを作った。昨年6月に導入し、旭川市の3倍近くの約2600キーワードに対応。“捨てたい物”の検索で「愛」と入力すると「愛はもらうものではなく、与えるものです。だから捨てずに与えてください」。「友達」なら「どうか大切にしてください」と思わず笑ってしまうコメントが表れる。

福岡市の家庭ごみ減量推進課の伊賀上恵子課長は「スマホ世代にとっては扱いやすく、親しみやすい。手軽に検索して正しく分別してほしい」と期待を込める。

利用者にとっては電話の待ち時間もない、いつでも調べられる、役所にとっては電話対応の数が減り他の作業ができる、環境にとってはきちんと分別できると三方良しのサービスだと思う。遊び心も備えているのも良い。各企業でもこのようにLINEを使った問い合わせに対応しているが、複雑なサービスを提供しているところはなかなか目的の回答にたどり着かずかえってイライラすることもある。しかし宅急便などサービスがある程度限られているものはレスポンスが早く便利なので、有効に使える企業には是非取り入れてもらい、AIの力を借りつつ他のサービスに注力できるようにしてもらえると嬉しい。